

2025 年度全国通訳案内士試験

第1次筆記試験＜一般常識＞

令和7年(2025年)版「観光白書」攻略

(切腹資料)

ハロー通訳アカデミー

植山源一郎

これだけは**必ず**覚えておけ！

●訪日外国人旅行者数

2019年:3,188万人(覚え方:サイクリングしている母親) 2020

年:412万人(覚え方:良いニンジン)

2021年:25万人(覚え方:ニコンのカメラ)

2022年:383万人(覚え方:産婆さん)

2023年:2,507万人(覚え方:事故(25)現場で大泣き(07)した)

2024年:3,687万人(覚え方:侍(36)が花(87)を食べた)

2025年度試験では、「2024年:3,687万人」は、多分、(大問1)に出題されるので、試験開始1分前から、「侍が花を食べた」を唱えること。

●国・地域別の訪日外国人旅行者数

2019年:(1位)中国、(2位)韓国、(3位)台湾

2023年:(1位)韓国、(2位)台湾、(3位)中国

2024年:

(1位)韓国(882万人)(23.9%)

(2位)中国(698万人)(18.9%)

(3位)台湾(604万人)(16.4%)

●訪日外国人旅行消費額

2019年:(1位)中国、(2位)台湾、(3位)韓国

2023年:(1位)韓国、(2位)中国、(3位)台湾

2024年:

(1位)中国(17,265億円)(21.2%)

(2位)台湾(10,807億円)(13.4%)

(3位)韓国(9,602億円)(11.8%)

●訪日外国人旅行消費額を費目

2019年:(1位)買物代、(2位)宿泊費、(3位)飲食費

2023年:(1位)宿泊費、(2位)買物代、(3位)飲食費

2024年:

(1位)宿泊費(27,331億円)(33.6%)

(2位)買物代(23,952億円)(29.5%)

(3位)飲食費(17,440億円)(21.5%)

●上記、(人数、金額など)数字、%の数値まで覚える必要はないが、**順位だけは覚えておくこと。**

「観光白書」からの出題実績

- (1)「観光白書」からは、近年、2017 年度以降、毎年出題されている。
- (2)出題される箇所は、例年、**第2章「日本の観光の動向」(第1節 訪日旅行の状況)**が定番となっている。
- (3)2025 年度は、ガイドラインの変更に伴い、**グラフなどの図表と共に**出題される可能性が高い。
- (4)出題実績の年度と大問番号
 - 2024 年度(大問 1)
 - 2023 年度(大問 1)
 - 2022 年度(大問 1)
 - 2021 年度(大問 1)
 - 2020 年度(大問 3)
 - 2019 年度(大問 1)
 - 2018 年度(大問 1)
 - 2017 年度(大問 1)

「観光白書」からの出題例

●注意点

- (1)以下に、2018 年度～2024 年度の「観光白書」からの出題例を示します。
- (2)問題文は、「観光白書」からの抜粋されることが多いので、「観光白書」をよく読みこんでおくと。
- (3)出題者の目線で、問題文を読むことが大切です。
- (4)過去問に該当する 2024 年、2025 年の「観光白書」の箇所を確認のために見ておくこと。

●出題例(2024 年度)(出典:2023 年版「観光白書」9 ページ)

(大問 1)

2022 年の訪日外国人旅行者数を国・地域別にみると、アジア主要市場からの訪日外国人旅行者数が 279.1 万人となり、全体の 72.8%を占めた。東アジアでは、(ア)が 101.3 万人と主要 22 市場のうちで最も多く、次が(イ)で 33.1 万人、(ウ)が 3 番目で 26.9 万人であった。これら 3 つの国・地域で訪日全体の 47.0%を占めた。空欄(ア)～(ウ)に当てはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(3 点)

- ①(ア)香港 (イ)台湾 (ウ)韓国
- ③(ア)韓国 (イ)台湾 (ウ)香港(正解)
- ②(ア)中国 (イ)韓国 (ウ)台湾
- ④(ア)台湾 (イ)中国 (ウ)韓国

(大問 2) (出典: 2023 年版「観光白書」11 ページ)

2022 年の訪日外国人旅行消費額を費目別(宿泊費、飲食費、交通費、娯楽等サービス費、買物代)でみると、全体に占める割合では、(ア)が 34.2%と最も高く、次が(イ)で 26.3%を占め、3 番目が(ウ)で 22.6%を占めた。これら 3 つで、訪日外国人旅行消費額の 83.1%を占めるに至っている。

空欄(ア)～(ウ)に当てはまる語句の組み合わせとして、正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①(ア)買物代 (イ)交通費 (ウ)飲食費
- ②(ア)宿泊費 (イ)買物代 (ウ)飲食費 (正解)
- ③(ア)娯楽等サービス費 (イ)買物代 (ウ)宿泊費
- ④(ア)飲食費 (イ)宿泊費 (ウ)買物代

●出題例(2023 年度) (出典: 2016 年版「明日の日本を支える観光ビジョン」2 ページ)

(大問 1)

2016 年 3 月の「明日の日本を支える観光ビジョン」以降、日本は 2020 年までに(ア)、2030 年までに(イ)というインバウンドの数値目標を掲げ、その実現に努めてきた。コロナ禍に伴う落ち込みは大きいものの、2023 年には各国同様、新たに回復と成長に向けて観光振興の取組みを本格化させつつある。空欄(ア)と(イ)に当てはまる組み合わせのうち正しいものはどれか。

次の①～④から一つ選びなさい。(3 点)

- ①(ア)訪日外国人観光客 2,000 万人、国際観光収入 5 兆円
(イ)訪日外国人観光客 3,000 万人、国際観光収入 8 兆円
- ②(ア)訪日外国人観光客 3,000 万人、国際観光収入 5 兆円
(イ)訪日外国人観光客 4,000 万人、国際観光収入 8 兆円
- ③(ア)訪日外国人観光客 4,000 万人、国際観光収入 8 兆円
(イ)訪日外国人観光客 6,000 万人、国際観光収入 15 兆円 (正解)
- ④(ア)訪日外国人観光客 6,000 万人、国際観光収入 8 兆円
(イ)訪日外国人観光客 8,000 万人、国際観光収入 20 兆円

●出題例(2022 年度) (出典: 2020 年版「観光白書」13 ページ)

(大問 1)

訪日外国人による旅行消費額は、2010 年代にかけて増加傾向を示し、2019 年には 4 兆 8,135 億円となった。2019 年の訪日外国人による旅行泊費額について、これを費目別で見たときに、構成比として上位 3 つを占めるものを挙げると(ア)のようになる。

空欄(ア)に当てはまる組み合わせとして、正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①買物代・宿泊費・飲食費 (正解)
- ②交通費・娯楽等サービス費・飲食費
- ③指泊費・交通費・飲食費
- ④買物代・飲食費・娯楽等サービス費

(大問 2) (出典:2020 年版「観光白書」11 ページ)

近年の訪日観光についての説明を読んで、問いに答えなさい。

(問 1)

2019 年の訪日外国人旅行者数は、過去最高となる 3,188 万人となった。国・地域別に見ると、中国が 959 万人 (30.8%) と最も多く、次が(ア)で 558 万人 (17.5%)、(イ)が 3 番目で 489 万人 (15.3%)であった。これら 3 つの国・地域が訪日全体の 63.6%を占めており、かねてからマーケットの偏りが指摘されている。

空欄(ア)と(イ)に当てはまる詩句の組み合わせとして、正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①(ア)台湾 (イ)韓国
- ③(ア)香港 (イ)韓国
- ②(ア)韓国 (イ)台湾 (正解)
- ③(ア)韓国 (イ)シンガポール

●出題例(2021 年度) (出典:2021 年版「観光白書」11 ページ)

(大問 1)

訪日外国人旅行に関する次の問いに対して答えなさい。

2020 年の訪日外国人旅行者数は、新型コロナウイルスの影響で、約 411 万 6 千人と、22 年前の水準に戻ってしまった。2020 年のこの数値は 2019 年と比較して何%減少したか、次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①87.1% (正解)
- ②97.1%
- ③12.9%
- ④2.9%

●出題例(2020 年度) (出典:2020 年版「観光白書」15 ページ)

(大問 3)

訪日外国人旅行者の消費動向に関する次の各問いに対して、それぞれ答えなさい。

(問 1)

2019 年の訪日外国人旅行者 1 人当たりの旅行支出は、平均 15 万 8,531 円であった。このうち宿泊費について国籍・地域別に見たとき、多い順に 3 つ並べたものとして、正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①英国、フランス、オーストラリア (正解)
- ②米国、ドイツ、インド
- ③中国、台湾、香港
- ④中園、シンガポール、ベトナム

●出題例(2019年度)(出典:2019年版「観光白書」12ページ)

(大問1)(問1)

2018年の訪日外国人旅客者数は、3,119万2千人であった。その居住国・地域別を多い順に4つ並べたものとして、正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(3点)

- ①中国、韓国、タイ、ベトナム
- ②中国、韓国、台湾、香港(正解)
- ③韓国、中園、シンガポール、台湾
- ④韓国、中国、アメリカ、イギリス

(問2)(出典:2019年版「観光白書」11ページ)

2018年の訪日外国人旅行者数は、前年比8.7%増の3,119万2千人を記録し、統計を取り始めた1964年以降、最多となった。市場別では、(ア)が113万人となり、東南アジア市場で、初めて100万人を突破した。空欄(ア)に当てはまる市場名を、次の①～④から一つ選びなさい。(3点)

- ①タイ(正解)
- ②シンガポール
- ③マレーシア
- ④フィリピン

(問3)(出典:2019年版「観光白書」13ページ)

訪日外国人による2018年の旅行消費額は4兆5,189億円となり、過去最高を記録した。費目別の構成比をみると、(ア)が34.9%と最も多く、次いで(イ)が29.2%であった。空欄(ア)と(イ)に当てはまる組み合わせのうち正しいものはどれか。次の①～④から一つ選びなさい。(3点)

- ①(ア)飲食費 (イ)娯楽等サービス費
- ②(ア)買物代 (イ)宿泊費(正解)
- ③(ア)娯楽等サービス費 (イ)買物代
- ④(ア)宿泊費 (イ)飲食費

(問4)(出典:2019年版「観光白書」14ページ)

2018年の訪日外国人旅行消費額と一人当たりの旅行支出額に関して、正しいものを次の①～④から一つ選びなさい。(2点)

- ① 訪日外国人旅行消費額は前年比でわずかに増加し、一人当たりの旅行支出額は約24万2千円となり、ともに過去最高を記録した。
- ② 訪日外国人旅行消費額は前年比でわずかに減少し、一人当たりの旅行支出額は約15万3千円となり、ともに前年よりも微減となった。
- ③ 訪日外国人旅行消費額は前年比でわずかに減少し、一人当たりの旅行支出額は約24万2千円となり、後者は過去最高を記録した。
- ④ 訪日外国人旅行消費額は前年比でわずかに増加し、一人当たりの旅行支出額は約15万3千円となり、3年連続で15万円台で推移している。(正解)

(問 5) (出典:2019 年版「観光白書」11 ページ)

2018 年の国・地域別訪日外国人旅行消費額について、正しいものを次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①中国及び韓国からの訪日外国人旅行消費額の合計は、訪日外国人旅行消費額全体の半分近くを占めている。(正解)
- ②中国・韓国・台湾・香港からの訪日外国人旅行消費額の合計は、訪日外国人旅行消費額全体のおよそ 8 割を占めている。
- ③中国からの訪日外国人旅行消費額は、訪日外国人旅行消費額全体の約半分を占めている。
- ④オーストラリアからの訪日外国人旅行消費額は、中国・韓国・台湾・香港に次いで第 5 位である。

●出題例(2018 年度)(出典:2018 年版「観光白書」11 ページ)

(大問 1)

訪日外国人旅行者に関する次の各問に対して、それぞれ答えなさい。

(問 1)

2017 年の訪日外国人旅行者数は、(ア)万人となり、5 年連続で過去最高を更新し、2020 年に 4,000 万人にすると目標に向け堅調に推移している。空欄(ア)に当てはまる数字を、次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①869
- ②1,869
- ③2,869 (正解) (覚え方:庭でロックン・ロールした)
- ④3,869

(問 2)

2017 年の訪日外国人旅行者による日本国内における消費額は、4 兆 4162 億円となり、初めて 4 兆円を超えたが、訪日外国人旅行者 1 人当たりの旅行支出は、前年比 1.3%減の 153,921 円となった。また、2017 年の訪日外国人 1 人当たりの旅行支出については、最も支出の大きかった国と 2 番目に大きかった国が前年から入れ替わった。2017 年に最も大きかったのは中国の 230,382 円であり、次いで大きかったのは(ア)の 225,845 円であった。日本百貨店協会が発表している統計資料によると、2017 年を通じて訪日外国人旅行者に最も人気が高かったのは(イ)である。

(小問 1) (出典:2018 年版「観光白書」16 ページ)

空欄(ア)に当てはまる国籍・地域名を次の①～④から一つ選びなさい。(2 点)

- ①インド
- ②オーストラリア (正解)
- ③米国
- ④英国

(小問2)(出典:2018年版「観光白書」)

空欄(イ)に当てはまる適切な語句を次の①～④から一つ選びなさい。(2点)

- ① 婦人服
- ② 食品
- ③ 婦人服飾雑貨
- ④ 化粧品(正解)

2025 年度＜予想問題＞

下記の＜予想問題＞と解説は、これ以前のページをすべて、ChatGPT に読み込ませて、作成したものです。

【予想問題 1】

2024 年の訪日外国人旅行者数として、正しいものはどれですか？

- ①約 2,507 万人
- ②約 3,687 万人
- ③約 4,280 万人
- ④約 3,188 万人

正解: ②約 3,687 万人

解説: 2024 年は新型コロナからの回復で過去最高の訪日外国人数を記録。

覚え方は「侍(36)が花(87)を食べた」。

【予想問題 2】

2024 年の訪日外国人数における国・地域別の第 1 位はどこですか？

- ①中国
- ②台湾
- ③韓国
- ④アメリカ

正解: ③韓国

解説: 2024 年は韓国が 882 万人で最多。2019 年と比べて中国との順位逆転がポイント。

【予想問題 3】

2024 年の訪日外国人旅行消費額において、最も金額が多かった国はどれですか？

- ①韓国
- ②中国
- ③台湾
- ④アメリカ

正解: ②中国

解説: 中国は 17,265 億円で全体の 21.2%を占め、消費額 1 位を維持。

【予想問題 4】

2024 年の訪日外国人旅行消費の費目別で、割合が最も高い項目はどれですか？

- ①買物代
- ②宿泊費
- ③飲食費
- ④娯楽等サービス費

正解:②**宿泊費**

解説:宿泊費は全体の 33.6%を占め、買物代や飲食費を上回った。

【予想問題 5】

訪日外国人数の「国別順位」が 2019 年→2024 年で変化したものとして、正しい記述はどれですか？

- ①(1 位)韓国 → (1 位)中国
- ②(1 位)中国 → (1 位)韓国
- ③(2 位)中国 → (2 位)台湾
- ④(3 位)台湾 → (3 位)アメリカ

正解:②**(1 位)中国 → (1 位)韓国**

解説:中国が 2019 年の 1 位だったが、2024 年は韓国が首位となった。

【予想問題 6】

2023 年と 2024 年における訪日外国人消費額の費目の順位として、正しいものはどれですか？

- ① ①飲食費 → ②宿泊費 → ③買物代
- ② ①買物代 → ②飲食費 → ③宿泊費
- ③ ①宿泊費 → ②買物代 → ③飲食費
- ④ ①宿泊費 → ②飲食費 → ③買物代

正解:③**宿泊費 → 買物代 → 飲食費**

解説:両年とも宿泊費が 1 位。買物代と飲食費が続く。

以上

第2章 日本の観光の動向 (2017①、2018①、2019①、2020③、2021①、2022②、2023①、2024①)

2020年以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国内外の観光需要は大きく落ち込み、全国の観光地・産業は厳しい状況に置かれたが、2022年10月の水際措置の大幅緩和や全国旅行支援の開始以降、需要は急速に回復し、2023年には全国各地の多くの観光地が賑わいを取り戻した。2024年は、特に訪日旅行需要が好調であり力強い成長軌道にある。

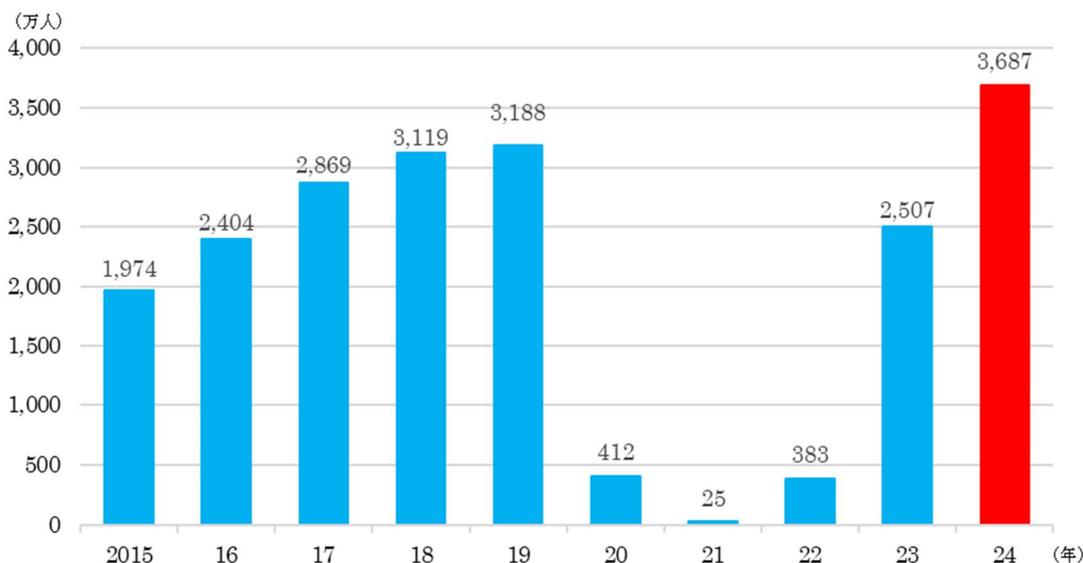
第1節 訪日旅行の状況 (2017①、2018①、2019①、2020③、2021①、2022②、2023①、2024①)

1 訪日旅行の状況

訪日外国人旅行者数は、2019年までは、ビザの戦略的緩和や外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充、CIQ²体制の充実といった施策を進めるとともに、航空・鉄道・港湾等の交通ネットワークの充実、多言語表記をはじめとする受入環境整備、魅力的なコンテンツの造成、日本政府観光局(JNTO)等による訪日プロモーション等により、過去最高を更新していたが、2020年から2022年までの訪日外国人旅行者数は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、年間を通じて大きく減少した。

訪日外国人旅行者数は、2022年6月の外国人観光客の受入再開、同年10月の水際措置の大幅緩和等により徐々に回復しはじめ、2023年10月には2019年同月水準を超えた。2024年には、堅調な訪日需要や航空便の回復により、東アジアのみならず、東南アジアや欧米豪等の幅広い国・地域からの旅行者が増加し、年間で3,687万人(2019年比15.6%増)と過去最高を記録した(図表I-7)。

図表I-7 訪日外国人旅行者数の推移



資料：日本政府観光局(JNTO)資料に基づき観光庁作成。

2024年の訪日外国人旅行者数を国・地域別にみると、アジア主要市場³からの訪日外国人旅行者数が2,906万人となり、全体の78.8%を占めた。

東アジアでは、韓国が882万人と主要23市場⁴のうちで最も多く、中国698万人、台湾604万人、香港268万人と続き、全体の66.5%を占めた。韓国、台湾及び香港からの旅行者数は過去最高を記録した。

東南アジアは、ASEAN(東南アジア諸国連合)の主要6市場⁵からの訪日外国人旅行者数が430万人となり、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン及びベトナムからの旅行者数は過去最高を記録した。北米主要市場⁶からの訪日外国人旅行者数は330万人となり、米国及びカナダからの旅行者数は過去最高を記録した。

² 税関(Customs)、出入国管理(Immigration)、検疫(Quarantine)の総称。

³ 韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム及びインドのことを指す。

⁴ 韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、インド、オーストラリア、米国、カナダ、メキシコ、英国、フランス、ドイツ、イタリア、ロシア、スペイン、北欧地域及び中東地域の計23か国・地域のことを指す。

⁵ タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン及びベトナムのことを指す。

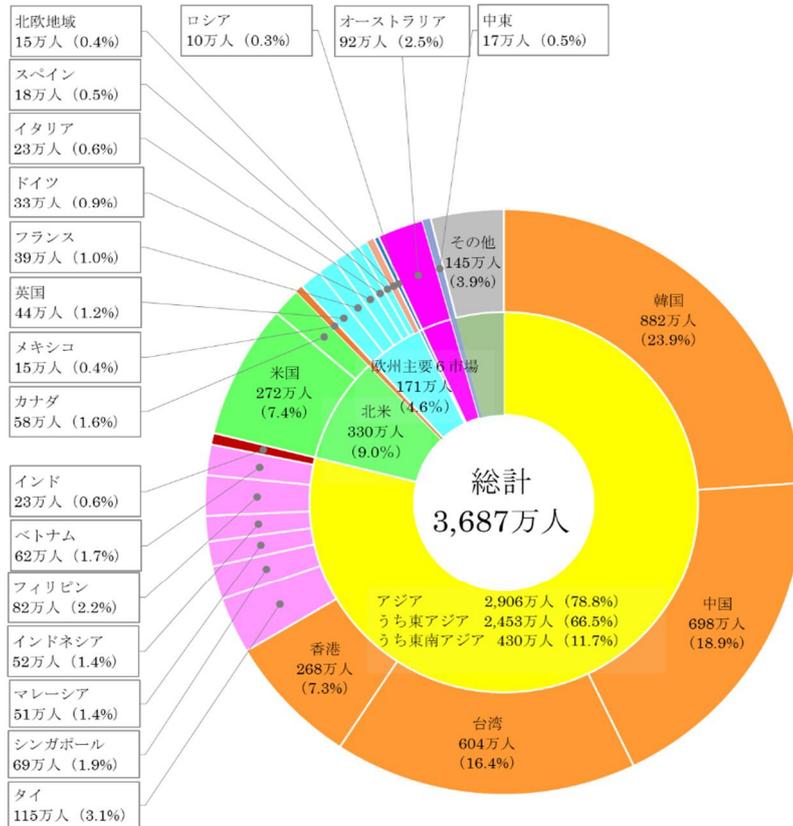
⁶ 米国及びカナダのことを指す。

欧州主要6市場⁷からの訪日外国人旅行者数は 171 万人となり、全ての国・地域からの旅行者数は過去最高を記録した。

オーストラリアからの訪日外国人旅行者数は 92 万人となった。

その他の地域では、南米が 16 万人、アフリカが 5 万人であった（図表 I－8）。

図表 I－8 訪日外国人旅行者の内訳（2024 年）

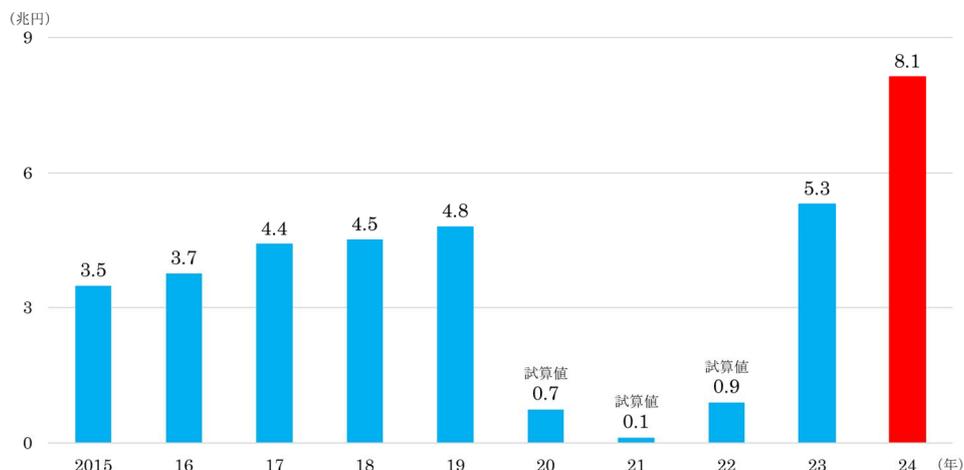


資料：日本政府観光局（JNTO）資料に基づき観光庁作成。
 注1：（ ）内は、訪日外国人旅行者数全体に対するシェア。
 注2：「その他」には、アジア、欧州等各地域の国であっても記載のない国・地域が含まれる。
 注3：数値は、それぞれ四捨五入しているため、端数において合計とは合致しない場合がある。

⁷ 英国、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン及び北欧地域のことを指す。

2024年の訪日外国人旅行消費額は8兆1,257億円(2019年比68.8%増)と、2023年に続き過去最高を更新した(図表I-9)。国籍・地域別にみると、中国が最も大きく、次いで台湾、韓国、米国、香港の順であった。2019年と比較すると、中国の構成比が低下した一方、韓国や米国等の構成比が上昇した(図表I-10)。

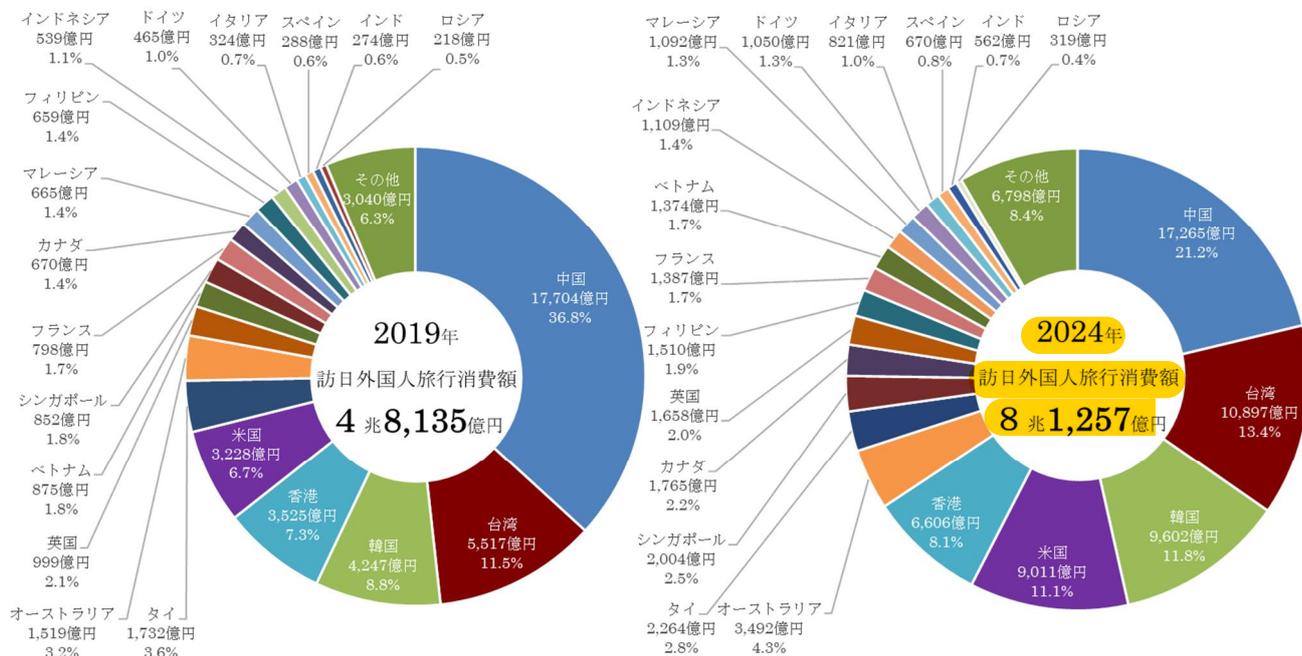
図表I-9 訪日外国人旅行者による消費額の推移



資料：観光庁「インバウンド消費動向調査」

- 注1：2017年までは空港を利用する旅客を中心に調査を行っていたが、短期滞在の傾向があるクルーズ客の急増を踏まえ、2018年からこうした旅客を対象とした調査も行い、調査結果に反映したため、2018年以降と2017年以前の数値との比較には留意が必要である。
- 注2：新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年においては4-6月期、7-9月期、10-12月期の調査を中止し、1-3月期の調査結果を用いて、2020年年間値を試算した。また2021年については、1-3月期、4-6月期、7-9月期の調査を中止し、10-12月期の調査結果等を用いて、2021年年間値を試算した。そのため、2019年以前の数値との比較には留意が必要である。
- 注3：新型コロナウイルス感染症の影響により、2022年は1-3月期、4-6月期、7-9月期を試算値として公表した。そのため、年間の値についても試算値であることに留意が必要である。

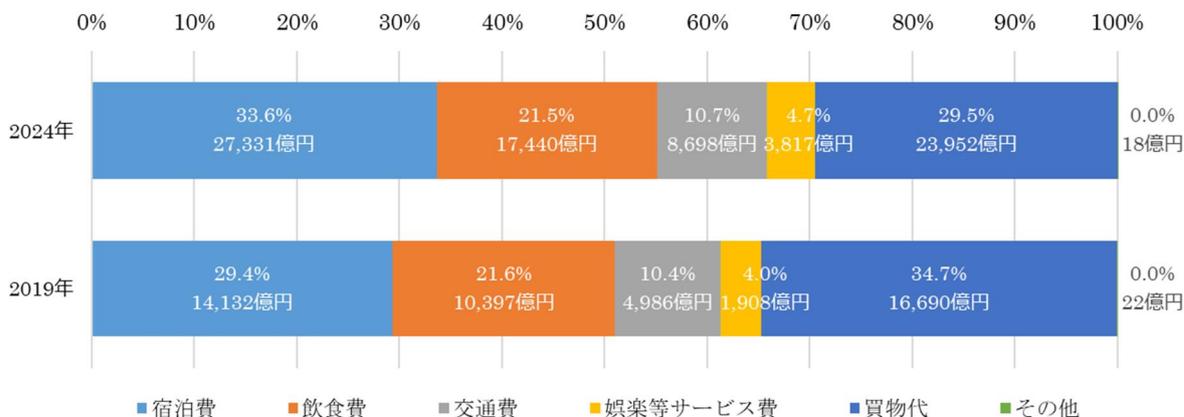
図表I-10 国籍・地域別の訪日外国人旅行消費額と構成比



資料：観光庁「インバウンド消費動向調査」

2024年の訪日外国人旅行消費額を費目別にみると、全体に占める割合では、宿泊費が33.6%と最も高かった(図表I-11)

図表 I-11 費目別にみる訪日外国人旅行消費額 (2024年②)



資料：観光庁「インバウンド消費動向調査」

注1：上段は旅行消費額の費目別割合。下段は費目別旅行消費額。